



表紙のこぼ

5月14日、浅羽東小学校で1～6年生の児童84人が参加して、放課後子ども教室が行われました。放課後子ども教室は、学年の違う子どもたちが一緒に遊んだり、地域の皆さんと交流したりする教室です。体育館で、じゃんけん列車や花いちもんめなどで遊び、低学年から高学年までの児童と一緒に楽しんでいました。

年間に20回開催され、料理や工作、グラウンドゴルフなどを行います。

今後、袋井西小学校と高南小学校でも行う予定です。

市民の動き

人口/86,466人 (前月比+15人)

(外国人登録者4,055人含む)

男性/43,609人 (前月比+16人)

女性/42,857人 (前月比-1人)

世帯数/30,427世帯 (前月比+58世帯)

平成20年5月1日現在



2008年(平成20年)6月1日発行 第77号

編集・発行/
袋井市役所総務部秘書広報課広報広聴係
〒437-8666

静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1
TEL 0538-432111 (代表)

【ホームページ】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>

【携帯サイト】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/i/>

【Eメール】

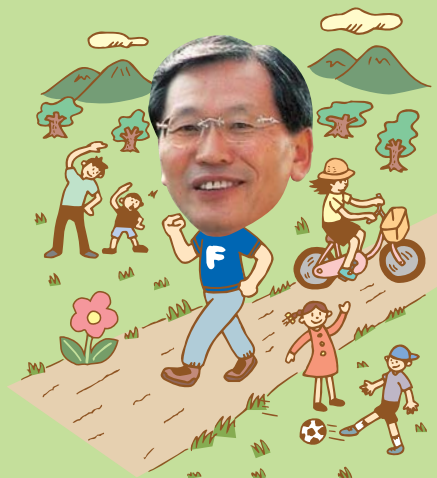
hisyo@city.fukuroi.shizuoka.jp

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています

原田市長の

さんぽみち

散歩道



5月、アジアで2つの大きな自然災害が発生した。2日にはミャンマーを大型サイクロンが襲い、12日には中国・四川省でマグニチュード7.8の大地震が発生した。両方とも死者、行方不明者の総数がはつきりしないほど多くの尊い人命が失われた。

この2つの災害は、袋井市民に昭和19年の東南海地震と昭和49年の七夕豪雨による被害を思い出させ、改めて東海地震への備えの必要性を感じさせたと思う。

東海地震の発生については、約30年前に石橋克彦さん(当時東京大学助手)が「東海地方では昔から150年ごとに大地震が発生しているの、次の大地震がいつ発生しても不思議ではない」という学説を発表したことに端を発して

いる。この説を受けて、当時の山本敬三郎静岡県知事が全国でも珍しい地震対策課を設置し、静岡県の地震対策が始まった。県の財政課で予算を担当していた私は、地震を予知するための事業費の計上をめぐって深夜まで議論したことを覚

「地震対策」

えている。ナマズを飼ってみたらどうか、地震雲を研究すべきだという意見さえもあった。

こうしたことから、7年前市長に就任した私は、すぐ地震対策に取り組んだ。東南海地震の悲劇を繰り返さないために、当時の状況を覚えている方々の体験談を教訓

として本にまとめるとともに、学校の耐震化を優先した。その結果、学校や施設の耐震化率は県内で最も高くなっている。

今、個人住宅の補強と家具の固定に取り組んでいるが、これがなかなか難しい。市独自の補助を上乘せして、個人の負担を少なくしているが、まだまだ目標に届かないので更に工夫しなければならぬと思う。

市全域で大きな災害を受けると直後の緊急対応は、地域ごとにならざるを得ない。幸い袋井市では、全地域で自主防災隊や自治会、消防団が整っているので心強い。しかし、進む高齢化や外国人居住者の増加など災害弱者も増えているため、地震対策を今一度見直す必要があると思う。